

### 【動物実験計画書に記載すべき情報】

動物実験に関する規定に基づいた形で、以下の項目について確認ができる様式作成、審査を行う。  
それぞれの項目については必ずしも個別の記載欄を設ける必要はなく、様式内で確認できればよい。

- 動物実験責任者
- 実験実施者、飼養者（教育訓練の受講歴<sup>注1</sup>）
- 研究課題名
- 実験の目的及び意義
- 実験期間
- 実験場所（飼養保管施設、実験室<sup>注1</sup>）
  
- 動物実験を必要とする理由（代替法の検討）
- 使用動物（種、系統、微生物学的区分、遺伝子組換え、匹数、導入元）
- 実験動物種選択の理由
- 使用動物数の算出根拠
- 動物実験の種類（試験・研究、教育・訓練、その他）
- 実験の概要、様態（薬物・試料投与、材料採取、外科的処置、行動観察…）
- 実験方法（動物に加える処置）
- 特殊実験区分（感染実験、遺伝子組換え実験、放射性同位元素・放射線使用実験、発がん実験、ヒト由来組織の使用実験…<sup>注1</sup>）
- 動物の苦痛の程度
- 苦痛軽減、排除の方法（向精神薬、麻薬等<sup>注1</sup>）
- 人道的エンドポイント
  
- 実験終了後の処置及び安楽死の方法
- 死体処理の方法<sup>注2</sup>

注1：別途、申請・承認等が必要な事項については、委員会が確認（承認番号、承認通知等）できるようにする

注2：機関、部局、施設で処理方法が別途定められている場合は除外してもよい